

## 支えあいのまちづくり協議体（月島地域）実施報告

中央区に住む方・働く方ができる支えあいの形について、身近な地域で話し合う「支えあいのまちづくり協議体（月島地域）」の令和3年度第1回目を、月島地域で開催しました。

### 1 実施日

令和3年6月3日（木）14:00～15:30

### 2 出席者

日頃高齢者と関わる機会の多い地域住民、関係機関、生活支援コーディネーター 12名

### 3 内容

- ・メンバー近況報告
- ・ゲストスピーカーによる実践報告
- ・意見交換

### 4 出席者近況報告

前回の協議体から、地域の様子や高齢者の状況について、各々から報告を行った。

- ✓ メンバーが活動している通いの場について、昨年11月に1度だけ開催できたが、緊急事態宣言、まん延防止等重点措置の影響から、それ以降は開催できていない。参加者の様子が心配であることから連絡先が分かる方は、電話をして様子を伺っている。どこも中止等が多く、運動ができないから運動をしたいと話されていた。
- ✓ 参加している高齢者クラブについて、『家に引きこもり、運動をしなくなって歩けなくなる人』や『人に会わず、会話が少なくなり認知機能が低下している人』がいると聞き、スタッフ間で協議をした結果、3密を避け、消毒や換気を徹底して今年度から活動を始めている。
- ✓ 高齢者宅に電話や訪問をした際に、電話での時間が長くなったり、帰り際玄関先まで話を続けたりする方が多くなった印象を受ける。皆、会話を欲している様子を感じるため、長めに時間をとって訪問するようにしている。
- ✓ 関わりのある85歳以上高齢者のほとんどが、2回目のコロナのワクチン接種が終了している。また個別接種も混乱なく予約できている状況。
- ✓ 運動に係る活動が行われているかという問い合わせが増えている。敬老館のプログラムも休止していることからか、身体を動かしたくてうずうずしている様子を受けている。
- ✓ 昨年は感染を恐れ、「サービスを使いたくない」、「家にいたい」という話をよく耳にしていたが、今年は「退院したらデイサービスを使いたい」といった話が多くあり、身体を動かす重要性に気づいた高齢者が増えてきたと感じる。
- ✓ 施設に入所されている全ての高齢者のワクチン接種が終了した。施設職員についてもワクチン接種が始まっているが、訪問サービスに従事する職員については今後接種する予定となっている。しかし職員全員が、週に1度PCR検査を行うことで対応している。
- ✓ 虹のサービスの協力会員をしているが、ワクチン接種の付き添いを行うことがある。付き添いで会場に行った際も手際よく接種を行っており、30分もかからずに終了していた。また申込についても混乱なく進められているようである。
- ✓ 高齢者から身体を動かすために散歩をしているが、誰にも会わなくなったとの話があった。

## 5 前回の振り返り

前回協議体では、高崎市と豊島区の事例を紹介した。それぞれの地域特性に合わせた様々な取り組みが展開されており、月島地域の良さを活かした取り組みの具体化に向けた協議を行っていききたいことを共有した。また、『高齢者のICT活用のメリット・デメリット』、『実現できたら好ましい仕組み』について意見交換したことを振り返った。

## 6 ゲストスピーカーによる実践報告

前回の協議体で「高齢者のICTに精通した方がいるので話を聞きたい」というメンバーからの提案を受けて、今回は退職後の生き方塾卒業生（朗楽の集い）の栗原秀次氏を招き、『高齢者のICT利用』について講話を拝聴した。

講話では、自身が所属する活動や妻が虹のサービスの協力会員として関わっている高齢者について具体例を挙げて、話をしてくださり、高齢者がICT活用を拒否するのは、「対面でこそそのコミュニケーションとと思っている人がいる」、「セキュリティの問題で家族に反対された」、「ICT環境が揃っていない」等の理由があるといった話や、ICTの活用には、「本人のやる気と周りからの支援が大切」で、本人がやる気になれる動機や家族や友人等身近なサポートが重要といった話があった。

## 7 意見交換

栗原氏に質疑応答を行う中で、メンバー及び栗原氏より『高齢者のICT活用』について以下の意見が挙げられた。

- ✓ 高齢者がICTを活用することになった動機として、家族や友人と繋がりたいといったものが多いように思う。92歳の自身の母はひ孫の写真を見たいという思いがあった。84歳の方で、アメリカに住む息子と連絡を取りたいがために、一生懸命に勉強したという話も聞いたことがある。
- ✓ 得意なものや興味のあるもの、趣味等がICTを利用するきっかけになると思う。例えば、最近話題のオンライン旅行や、スマホで撮った写真を誰かに見てもらうことがとっかかりとなるかもしれない。
- ✓ おとしより相談センターに、写真好きな高齢者で、スマホで撮った写真を見てほしいと来所される方がいる。FacebookやLINEの投稿画面で「いいね」とかをもらえると、やる気のモチベーションになるかもしれないと感じた。
- ✓ コロナ禍で病院では面会を制限しているが、多床室では家族に病院食やりハビリの様子についてLINEをしている高齢者がいる。また、個室だとビデオ通話をする方もいる。一方でそういった技術がない方は、入院すると家族と連絡を取る方法がない。
- ✓ 右片麻痺があり、スマートフォンの操作はできないが、スマートスピーカーを使いこなし映画を見たりと快適に過ごしている高齢者がいる。楽しさが分かれば機器が欲しくなる人がいるのではないかと。
- ✓ 施設面会でZoomを用いて、家族と対面できる部屋を作っているという話を聞いた。家族も予め用意されていたミーティングルームに入るだけで、入所者は部屋に行けば話すことができる。そういった経験から、自分もこの機器が欲しいと思ってもらえるかもしれない。
- ✓ LINE講座等を行っても、「LINE自体が何に役に立つのか」を理解してもらわないと、参加に結びつかないと思う。
- ✓ 講座よりは、ふらっと寄って、その時に分からないことを教えてもらえる場がある方が良いと思う。

- ✓ 講座だと用語が分からず、講座の内容が理解できない場合がある。また、講座についていけず、結果何を質問していいのかも分からなくなることがある。
- ✓ 高齢者によって各々のスキルが違ふと思われることから、『講師と受講生』というよりも、スマートフォンのことを聞ける人・教えてくれる人が会場にいる方が相談しやすい。講座だとかしくまってしまう、自分の聞きたいことが聞けない。

## 8 今後のスケジュール

次回は令和3年の8～9月に開催予定。今回話に上がった『ICT活用に向けた動機付けとその為の取り組み』や『高齢者がICT活用にあたって相談しやすい環境』について意見交換を行いたい。